

令和3年4月1日

保護者の皆様  
地 域の皆 様

世田谷区立緑丘中学校  
校長 高 山 知 機

令和3年度に向けた改善策  
(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

先日、本校学校関係者評価委員会から、学校関係者評価結果の分析と報告を受けました。良好な評価とともに、改善を図る点について提言も受けました。

校長として寄せられたご回答やご意見をしっかりと受け止め、具体的改善策を考え、次年度の教育活動に生かすことをお約束します。

記

学校評価委員からの提言と次年度に向けた改善策

	学校評価委員会からの提言	校長として次年度に向けた改善策
<b>I 基本方針と方策について</b>		
<b>1. 学力向上と「世田谷9年教育」で培った知識・技能を活用できる能力の育成</b>		
(1)	教員の黒板の書き方やプリントの工夫について、生徒全体で84%の肯定的評価が出ており、一昨年度の82%より上回った。また、全教育活動において言語活動を取り入れた学習が定着したと言える。	今般の数字に満足することなく、引き続き都教委・区教委等の主催する研修に教員を派遣し、授業力の向上に努めさせる。
(2)	教員の映像やタブレット等ICTを利用した指導の工夫については、性別で76.4%が肯定的意見を出している。今後、利用時間と健康面に配慮しつつ、ICT教育の積極的活用に取り組み、発展させていただきたい。	教職員のICTスキルの向上を図りつつ、主幹養護教諭の関与を多くし、生徒の健康面に配慮した活用計画を構築させる。また、ICT機器活用の学習指導において、今後80%以上の肯定的評価を目指す。
(3)	「先生たちは生徒が相談しやすい」では、3学年生徒については78.8%と高めだが、生徒全体では66.8%となっている。生徒と教員とのコミュニケーション機会の確保が求められる。	研修等に生徒理解のテーマを多く取り入れ、生徒の心に寄り添った指導が図れるよう、教員の対応力向上を図っていく。
<b>2. 体力の向上と健康に対する意識の高揚</b>		
	「体力向上や健康な生活に取り組んでいる」70.6%、「体調管理に気を付けている」83.4%、「子どもの健康に気配りしている」90.5%と肯定的評価が高い。しかし、生徒本人の主体的な体力向上や健康な生活に対する意識が低いように思われる。学校として雰囲気の醸成から始められるよう対応を求める。	保健体育の授業を中心に、生徒の健康に対する興味・関心を喚起するとともに、生活指導による、基本的な生活習慣の確立を図るよう、生活指導部、各学年の組織的取り組みを展開していく。
<b>3. 人権を尊重した教育活動の推進</b>		
	「私は学校のルールについて考えて行動している」87.6%、「先生は学校のルールを生徒に考えさせて指導している」79%と肯定的評価が高い。 「先生たちは生徒にわかりやすく指導している」84.3%、「先生は生徒の意欲を大切にしている」75.5%、生徒の評価が高い反面、保護者	東京都教育委員会の発する「人権教育プログラム」等の資料を活用し、引き続き、教員の人権意識の高揚を図っていく。 また、生活指導主任を核とした生活指導部、学年主任を核とした学年組織等、組織的な指導体制の構築を図るとともに、各主任を中心

	<p>については 56.5%、また教職員の自己評価からも課題があるとの意見がある。</p> <p>教職員の「情報の共有化」「共通理解の深化」を進めていく必要がある。</p>	<p>に、分掌内教員の情報の共有化と分掌内格差是正に努める。</p> <p>また、指導につき、保護者への情報提供と指導方針の明確化、保護者の意向を重視した指導の構築を図っていく。</p>
--	--	---

#### 4. 伝統・文化に関する教育の充実を視野に地域と信頼関係で結ばれた学校づくりの推進

(1)	<p>「各種学校だより等を通じた適切な学校情報の発信」について、保護者の 85.1%、地域の 97.8%が肯定的評価をしている。</p> <p>また「学校HPやメールによる保護者への情報提供」においては、保護者の 67.1%、地域の 66.7%が肯定的評価をしている。</p> <p>反面、自由記述において、連絡事項や年間予定の学校HPへの掲載、学校HPのレイアウトの改善について意見があつた。IT環境の充実と必要情報の発信について配慮が必要である。</p>	<p>紙ベースによる情報発信については、今後とも適宜改善を施し、肯定的評価の向上を目指す。</p> <p>また、学校HPやメール等によるデータベースによる情報発信については、個人情報の取扱いに充分注意し、発信頻度、レイアウトの改善を重点に改善をしていく。</p>
(2)	<p>コロナ禍の影響により、充分なPTA活動や地域連携が図れなかつた。</p> <p>その中で、地域連携につき 60%が肯定的な評価を出している。</p> <p>また学校の教育方針につき、保護者の 70%が肯定的評価を、教職員の教育方針に対する理解についても、保護者の 60%程度が肯定的評価を出している。</p>	<p>本年度は特殊な状況の中、比較的高い評価をいただいているものと思われる。しかし、引き続き、保護者・地域の方々から、80%以上の評価を得られるよう、活動の充実ときめ細かい情報発信に努めていく。</p>

#### 5. 公的機関としての学校組織の運営

(1)	物品の管理・購入の適正な執行と明確な運用について、教職員のヒアリングを行った。購入の時期等、適正執行に課題が見受けられた。	教員と事務主事との連絡・連携を密にし、今後は購入時期等、年間を見通した執行がなされるよう、毎週の主任会議を活用する。
(2)	給食費・教材費等の私費会計については問題が散見されなかつた。	今後とも適正執行に努める。
(3)	決算報告書、会計事務に関する説明責任については、今後説明の機会、適正執行の証明の明示が必要である。	決算の時期を極力早め、年度末の保護者会で明示できるよう、計画的な執行を心掛ける。

### II 共通項目アンケートの評価

#### 1. 生徒のアンケートより

	<p>回収率は、1 年生 92.3%、2 年生 91.9%、3 年生 90.5%であった。</p> <p>全学年を通して、「学習面」に関する肯定的評価は、80%台半ば以上と高いものがある。反面、少数ではあるが学習内容がわからないなどの意見も散見される。</p> <p>「生活指導」については、概ね 80%の肯定的評価である。また「進路指導」については、70%台から 80%の肯定的評価がなされている。今後とも、生徒の進路選択肢のきっかけとなる機会や場の提供を要請する。</p>	<p>学習面については、引き続き、外部研修等適切に活用し、教員の授業力向上を図っていく。また、学習に課題のある生徒については、特別支援教室（すまいるみどり）との連携を図りつつ、きめ細かい指導の確立を目指していく。</p> <p>生活指導については、人権教育と相まって、規範意識の高揚と、教員の指導力向上を、ベテラン教員の経験を活用しつつ、家庭との連携を密にして、健全育成に努める。</p>
--	--	--

#### 2. 保護者のアンケートより

	<p>回収率は、1 年生 74.8%、2 年生 69.3%、3 年生 64.7%であった。</p> <p>学習指導についての肯定的評価は、30%台後半から 40%台前半と、低い状況にある。コロナ禍による、学校休業等に起因している可能性がある。</p>	<p>引き続き全校態勢で「わかる授業」の実践と、区・都・国 の各種学力調査を活用し、生徒の学力成果の向上を図り、保護者の理解をいられるよう努めていく。</p>
--	---	---

3. 地域の方々のアンケートより	
回収率は 47.5%で、前年度(31.4%)より改善している。 学校の取組については、概ね 80%台半ばから 90%台後半と、高い肯定評価がみられる反面、「生徒はいつも挨拶をしてくれる」23.9%、「学び舎の活動について情報が提供されている」11.4%など、生活指導の成果と学び舎活動の情報発信に課題がみられる。	引き続き、生徒会のあいさつ運動の実践や、生活指導のあらゆる場面で、基礎となる「挨拶の重要性」を指導していく。 「学び舎活動」については、今般のコロナ禍の影響で、引き続き制限の課せられる状況ではあるが、学校ＨＰ等、ＩＣＴを活用し、情報発信に努める。
III 自己評価について	
学校の経営方針、教育方針の明確化と教職員に対する共有化は、充分に果たされている。施設設備の安全管理、とりわけ鍵の管理等、また、ＩＣＴ教育の組織的・継続的改善が求められる。	現状の危機管理マニュアルの見直しの他、隨時補修個所の確認を行い、また、カギの管理につき、教職員のモラル向上を図れるよう、研修を通じて徹底する。 また、ＩＣＴについては、区教委の研修等を積極的に活用し、充実させる。
IV 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見	
学習指導については、概ね評価できる。コロナ対策についても、高評価である。 反面、ＩＣＴ活用や授業運営について、生徒・保護者からの不安・不満が散見された。コロナ禍で、学校行事の多くが中止となつたが、今後は新たな形式での実施が求められる。 今後地域との連携についても、復活するものと期待する。	高評価をいただいたものについては、引き続き、生徒・保護者、地域の期待に応えられるよう、努力を継続していく。 ＩＣＴの活用については、区教委の研修を活用しつつ、校内研修を行い、充実できるよう努力していく。 コロナ禍による制限がある中、様々な対応措置を講じて、新たな形式による学校行事の実施に努める。